

[インデックスに戻る](#)

4. 場合の数と確率

4-1. 集合とその要素の個数

4-1-1. 集合

4-1-1-1. 集合とその要素

「2桁の整数」のように範囲がはっきりしたものの集まりを集合という。集合に属している1つ1つのものを、その集合の要素という。

集合の表し方には、要素をかき並べて表す方法と、その集合の要素であるための条件を用いて記述する方法がある。

例

1桁の偶数全体の集合を A とする。

$$A = \{2, 4, 6, 8\}$$

と表すことができる。また、

$$A = \{2n \mid n = 1, 2, 3, 4\}$$

と表すこともできる。

要素の個数が多い場合は、“…” を使って表すことがある。

例

2桁の偶数全体の集合を B とする。

$$B = \{10, 12, 14, \dots, 98\}$$

と表すことができる。また、

$$B = \{2n \mid n = 5, 6, 7, \dots, 49\}$$

や

$$B = \{2k + 10 \mid k = 0, 1, 2, \dots, 44\}$$

と表すこともできる。

a が集合 A の要素であるとき、記号で

$$a \in A$$

と表す。

[インデックスに戻る](#)